

The Shinro Journal とは …… 松江東高校進路指導部が発刊する情報紙です。主に進路に関する情報提供や、各種行事や講座の案内・報告を行います。

今回は国公立大学へ進学するメリット、大学の選抜方法についてまとめてみました。

大学には大きく分けると「国立」「公立」「私立」の3種類があります(「国立」「公立」をあわせて「国公立」といいます)。旺文社の資料によると、令和2年度の大学数は

国立82、公立91、私立592

と記されています。さて、以下は今年度の東高生の進路希望調査結果から抜粋したデータです。

大学進学希望者

	国公立志望	私立・短大志望
1年生(7月)	151	8
2年生(6月)	160	15

多くの生徒が「国公立大学」を志望していることが分かります。こんなにも「国公立大学」が志望される理由は何でしょうか? 人によっては、家の人に言われたから…、学校や塾の先生に言われたから… などの理由もあるかもしれません。あらためて、国公立大学を志望する生徒に問います。

あなたが国公立大学を志望する、主体的な理由がありますか?

真っ先に浮かぶ理由が「学費が安い」ではないでしょうか。しかし、どのくらい安いのかを知っている人は少ないと思います。

一般的な4年制大学の学費(入学金・4年間の授業料・設備費など)の平均額

国立	約242万円
公立	約255万円
私立文系	約399万円
私立理系	約540万円

(BenesseHPより)

理系であれば4年間で300万円もの差があります。この差額300万円を奨学金で借り、卒業後に月5万円返済すると、5年間かかります。想像できますか?

他にも「設備が充実している」という理由もあると思います。一理ありますが、これは私立大学が充実していないということではありません。参考に、令和2年度の科学研究費助成事業(通称:科研費)の配分が多い大学ランキング(文部科学省発表資料より作成)を見てみます。上位50大学の内訳を見てみると、

国立35、公立5、私立10

となっていますので、冒頭の大学数と比較してみると国立大学に多く配分されているのが分かります。ちなみに、私立大学トップ10は

慶應義塾、早稲田、立命館、順天堂、東京理科大学、日本、近畿、同志社、東海、明治

です。これらの私立大学は設備がとて充実しているといえるのではないのでしょうか。国立大学については、教育大学・体育大学などを除けば、すべて200位以内にランキングしています。いくつか紹介します。中国地区の「ブロック大学」である広島・岡山はさすが…、といったところでしょうか。

1位: 東京大学	13位: 広島大学	
2位: 京都大学	15位: 岡山大学	58位: 鳥取大学
3位: 大阪大学	37位: 山口大学	68位: 島根大学

また、令和2年度の新規配分額の割合も見てみましょう。

国立 61.1% 公立 5.7% 私立 20.4%(残りは大学以外の研究機関など)

圧倒的に国立大学へ配分されています。このことから、国立大学は平均的に設備が充実しているのだらうと予想できます。ただし、科研費は主に理系学部への補助なので、理系学部がない大学はランキングが低くなることを補足しておきます。

もうひとつ、図書館の蔵書数が多い大学のランキング(2019旺文社資料より作成)も見てみましょう。上位50大学の内訳を見てみると、

国立21、公立2、私立27

となっています。科研費ほどではないですが、国立大学の割合が比較的多いといえそうです。こちらの私立大学トップ10は

日本、早稲田、慶應義塾、立命館、同志社、明治、東海、中央、関西、近畿

です。科研費のランキングとは反対に、こちらは理系学部が多い大学のランキングは低くなる傾向があります。トップ3と中国地区国立大学は以下のとおりですが、やはり国立大学は安定感があります。

1位: 東京大学	11位: 広島大学	
2位: 京都大学	29位: 岡山大学	73位: 島根大学
3位: 日本大学	38位: 山口大学	116位: 鳥取大学

比較的安く、充実した設備が利用できるとなれば、国立大学の人気が高まるのも納得できます。また、これらの理由によって人材が集まることも見逃せません。考え方は様々ですが、浪人してでも国立大学を目指す価値はあると思います。

さて、そのように人気が高い国立大学の一般的な入学試験(一般選抜)は高いハードルが課せられます。第1関門がご存知「**大学入学共通テスト**」、それに加えて多くの大学では独自の「**個別試験(2次試験)**」を受験しなければなりません。難関大学になると、共通テストの点次第で個別試験を受けることすら許されません。国公立大学を志望する生徒は、この高いハードルをクリアするべく、日々学習を続けなければなりません。

一方で、近年は一般選抜とは異なる入試の定員が増える傾向にあります。裏面ではそれらの選抜方法について述べていきます。

〈学校推薦型選抜試験〉

①公募制推薦

大学が提示した条件を満たす人が、高校の推薦を得て出願します。学力だけでなく、様々な能力・活動を評価の対象とすることが多いです。

②指定校推薦

大学側が、各高校の卒業生の様子などを見て「この高校が推薦する生徒であれば進学してほしい」、と思う高校に推薦を依頼します。出願要件は①と同じだが、1校から出願できる人数が限られるため、厳しい校内選考が行われます。国公立大学はこの推薦を実施していません。

この入試は学校の推薦が必要です。生徒の「試験への取り組み・成績・出欠状況・授業や各活動の取り組み」などを評価して、学校として推薦できるか判断をします。松江東高校では、次のようなポイントを重要視しています。

1. 各学期末・学年末の評価が基準をクリアしているか（大学が最低ラインを設ける）
また、不認定科目がないか
2. 学習活動への取り組みが良好か
3. 欠席・遅刻・早退が多すぎないか（特に、看護系を希望する人は注意です）
4. E T Cの合格率が低くないか

〈総合型選抜試験〉

高校の推薦を必要とすることはほとんどなく、大学が提示した条件を満たせば出願ができます。ただ、推薦は不要であっても、書類などの準備を高校が行わなければならない場合があります、その場合は出願に制限をかけることがあります（島根大学の「へるん入試」はこれに該当）。学校推薦型と同じように、学力だけでなく、意欲や適性も含めた総合的な人物評価を行うことが多いです。（小論文・プレゼンなど）

◎学校推薦型・総合型の両方に共通すること

他大学との併願を認めない「専願」であることが多く、合格した場合は必ず入学しなければなりません。その場合、第1志望でない大学を受験することは認められません。

選考方法は「書類審査」＋「面接」＋ α の形がほとんどです。 α の部分には学力試験や実技試験、小論文試験、レポート等が入ります。書類審査は(ア)調査書、(イ)推薦書、(ウ)志望理由書、が対象になることが多いです。

- (ア)調査書 … 成績を含めた、高校での活動状況を記述したもの。高校が作成する。
(イ)推薦書 … 出願者を推薦する理由を記述したもの。高校が作成する。
(ウ)志望理由書 … 出願者がその大学(学部・学科)を志望する理由を記述したもの。出願者本人が作成する。

以上から、学校推薦型・総合型選抜に向いているのは、

普段の学校の取り組みが良好で、面接や作文が苦手でなく、 特定科目に特化した能力や学力以外の武器を持った人物

ということになります。

また、これらの試験を受けるための準備に多くの時間を割かなければいけません。その分、一般選抜を目指して学習している人とは学力の差が開くこととなります。地道に学習を続けていけば一般選抜で合格したであろう人が、推薦選抜にチャレンジしたがために学力が伸びず、推薦・一般ともに不合格…という例も珍しくはありません。安易に出願するのはお薦めしません。

10月～大学入学共通テスト 進路関係の主な予定

10月	8・9日	3年生	進研記述模試
	9日	1・2年生	希望者模試
	15・16日	〃	土曜講座
	16日	3年生	全統記述模試
	22・23日	〃	全統マーク模試
	30日	〃	大学オープン模試（希望者）
11月	3日	〃	〃
	5日	1・2年生	土曜講座
	5・6日	3年生	進研マーク模試
	9日	1年生	進研記述模試
	9・10日	2年生	〃
	12・13日	3年生	全統プレ共通テスト模試
	26・29日	〃	第4回進路検討会
12月	10・11日	〃	マーク模試演習
	13・14日	1年生	進路検討会
	16・17日	2年生	〃
	21日	3年生	冬期講座開始（28日まで）
	24・25日	〃	マーク模試演習
1月	4・5日	〃	〃
	15日	1・2年生	土曜講座⑥
	15・16日	3年生	大学入学共通テスト

10月は既に終わりましたが、見て分かれるとおり、10月から3年生は毎週のように模擬試験に取り組んでいます。部活で例えるなら、大会前に練習試合を繰り返している状態です。基礎的な練習を疎かにしたまま実践練習をしても身になりません。1・2年生は今のうちに基礎的な練習を徹底しておきましょう。